

関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

病害虫発生予察特殊報第 2 号を下記のとおり発表します。

令和元年度病害虫発生予察特殊報第 2 号

- 1 病害虫名 ネギハモグリバエ (別系統) *Liriomyza chinensis* Kato
- 2 対象作物 ネギ
- 3 発生地域 兵庫県播磨地域

4 発生経過

- (1) 令和元年 11 月、加西市の露地ネギ圃場^{ほじょう}において、従来から発生しているネギハモグリバエ (以下、従来系統) とは異なり、複数の白線状の食害痕が交わり、進展すると広く白化する症状 (写真 1) が確認された。
- (2) 被害株から採集した個体は、令和 2 年 2 月、農業・食品産業技術総合研究機構 野菜花き研究部門による遺伝子解析により、別系統のネギハモグリバエ (以下、別系統) と同定された。
- (3) 別系統は、平成 28 年に京都府で初確認されて以降、茨城県、富山県、千葉県、長野県、埼玉県、新潟県、栃木県、三重県、滋賀県、大阪府、愛知県、東京都、佐賀県、岐阜県および鳥取県の計 16 都府県で発生が確認されており、本県における発生確認は今回が初めてである。

5 形態及び生態

- (1) 別系統は、従来系統と形態的な差異が認められないため、外観による両系統の識別は困難である。
- (2) 両系統とも、成虫の体長は約 2mm、胸部と腹部は黒く、その他の部分は淡黄色である (写真 2)。幼虫はウジ虫状で、成長すると体長は約 4mm となり、蛹は体長約 3mm で、褐色で俵状の形態をしている。
- (3) 両系統とも、成虫は葉の組織内に産卵し、ふ化した幼虫は葉の内部に潜り込み、葉肉を食害する。幼虫は成長すると葉から脱出し、地表または土中で蛹となる。

6 被害

- (1) 別系統は、従来系統より、1 葉あたり幼虫数が多い傾向にある。

- (2) 初期は、複数の白線状の食害痕が交わった症状をしている（写真1左）が、食害が進むと、近接した食害痕が癒合し、幅広で面的に白化した症状（写真1右）となり、従来系統の食害痕（写真3）と異なる。

7 防除対策と注意点

- (1) 従来のネギハモグリバエと同様に対処する。
- (1) 薬剤防除は、ネギハモグリバエやハモグリバエ類に適用のある薬剤を使用する。被害の症状が従来系統より激しくなるため、発生初期の防除を徹底する。
- (2) 発生源となる被害葉や収穫残渣は、1カ所にまとめて積み上げ、ビニール等で覆い裾部を土で埋める等、適切な処分に努める。

8 問い合わせ先

兵庫県病害虫防除所（加西市別府町南ノ岡甲 1533）

電話番号：0790-47-1222



写真1 別系統の幼虫による葉の食害の様子（左：初期症状、右：後期症状）



写真2 ネギハモグリバエ成虫



写真3 従来系統の食害の様子